

大学生の考える「Eメールの好ましき」とは —読み手の視点に立った場合—

菊池理紗 (法政大学大学院)

キーワード: Eメール, 好ましき, 読み手

問題の所在と目的

近年, 学生にとっての Eメールは公的な相手 (e. g. 教員) とのコミュニケーションツールである。一方で, 学生に書かれた Eメールには不備がみられることが指摘されている (佐藤・小笠原・布川, 2015)。この現象の原因は定かではない。だが, 自分の書いた Eメールが相手に好ましくないとと思われるとわかっていて送る学生はいないであろう。では, 学生はどのような Eメールを好ましいと認識しているのだろうか。本研究では, 学生が読み手の立場になったときにどのような Eメールを好ましいと評価するのかを探索的に調査した。

方 法

参加者 大学生・大学院生男女 127 名が参加した。このうち, 読み手意識尺度への回答に不備があったもの 2 名と, 社会人経験があると考えられる 30 歳以上の参加者 6 名を除いた 119 名のデータ (男性 48 名, 女性 71 名, 18 歳 10 ヶ月~25 歳 4 ヶ月) を分析対象とした。調査の内容および手続きについては, あらかじめ法政大学文学部心理学科・心理学専攻倫理委員会の了承を得た (平成 29 年 11 月 22 日 承認番号: 17-0123)。

質問項目 Eメールの好ましきに関する質的調査 (菊池, 2017a, b) の結果から, 読み手の立場における Eメールの好ましきに関わる尺度 (29 項目) を作成した。また, 基準関連妥当性を検討するために岸他 (2014) の読み手意識尺度 (16 項目) を用いた。**手続き** 参加者ペースで個別に回答させた。回答時には指導教員や大学の職員と公的な Eメールをやりとりする場面を想像するように教示した。所要時間は 5~10 分程度であった。読み手の立場における好ましきに関する項目は 5 件法 (1: 全く当てはまらない~5: 非常によく当てはまる) で, 読み手意識尺度は 4 件法 (1: 当てはまらない~4: 当てはまる) で回答させた。回答の偏りを排除するため, 項目の並びのパターンを複数作成し, 各参加者にランダムに配布した。また, 順序効果を相殺するため, 尺度の提示順を操作した。

結果・考察

まず, 項目分析を行ったところ, 「絵文字がない」と「顔文字がない」に強い相関関係がみられた ($r=.856$)。そこで, 先行研究などをふまえ, 「顔文字がない」を分析項目として採用した。その後, 探索的因子分析 (重み付けのない最小 2 乗法, プロマックス回転) を行った。因子は, スクリーンプロット

とその解釈のしやすさをふまえて抽出した。さらに, いずれの因子にも .40 以上の負荷量を持たない項目と, 複数の因子に .40 以上の負荷量を持つ項目を削除し, 因子分析を再度行った。最終的に, 読み手の立場における好ましきとして 4 因子を抽出した (累積寄与率 52.04%)。それぞれ高い負荷量を示した項目から, 第 1 因子は「簡潔さ因子」, 第 2 因子は「書き手明示因子」, 第 3 因子は「読み手配慮因子」, 第 4 因子は「用件明示因子」と命名した (Table 1)。加えて, 全ての因子の間に弱い~中程度の正の相関がみられた。

一方, 基準関連妥当性を検討するために, これらの因子と読み手意識尺度の四つの下位尺度との相関関係を検討した。その結果, 「簡潔さ因子」は全ての下位尺度と, その他三つの因子は下位尺度の中の「説明意識」と「メタ理解」と弱い正の相関関係がみられ, 尺度の妥当性は担保されたといえる。以上の結果から, 読み手となった学生は, 簡潔で, 書き手が誰であるかと用件がわかりやすく, 自分に配慮された Eメールを好ましいと評価すると考えられる。

主な引用文献

岸 学・辻 義人・靱山香奈子 (2014). 説明文産出における「読み手意識尺度」の作成と妥当性の検討 東京学芸大学紀要総合教育科学系, 65, 109-117.

Table 1

読み手の立場における好ましきの因子分析結果

	因子			
	1	2	3	4
[簡潔さ因子] ($\alpha=.735$)				
11. 本文が長過ぎない	.687	-.040	-.008	-.035
24. 文章が簡潔である	.549	-.046	.102	.045
23. 内容がわかりやすい	.532	.139	-.140	.079
29. あなたに配慮された文章構成になっている	.480	.078	.321	-.114
15. 本文に関係ない広告がついていない	.479	.042	-.115	.141
26. 適切な場所で改行されている	.458	.144	.175	-.008
[書き手明示因子] ($\alpha=.653$)				
1. 相手の名前が書いてある	.045	.879	-.024	-.152
2. 相手の所属が書いてある	.059	.626	.038	.038
17. 顔文字がない	.111	.460	-.197	-.092
3. 最後に相手の署名がある	-.067	.455	.180	.176
9. やり取りの履歴が残っている	-.002	.404	-.258	.182
[読み手配慮因子] ($\alpha=.669$)				
7. あいさつが書かれている	-.014	-.238	.764	.063
28. あなたへの配慮を表す言葉が書かれている	.153	-.125	.693	-.019
6. あて名として, はじめにあなたの名前が書いてある	-.233	.381	.536	-.005
[用件明示因子] ($\alpha=.613$)				
25. 一つのメールで複数の内容を扱っていない	.020	-.142	.007	.666
5. 件名から内容がわかる	-.033	.157	.127	.549
10. ファイルが添付されていることを本文に書いている	.179	.005	-.003	.516
因子間相関				
簡潔さ因子	1.000			
書き手明示因子	.348	1.000		
読み手配慮因子	.402	.539	1.000	
用件明示因子	.363	.398	.318	1.000

付 記

なお, 本発表の一部は, 平成 30 年 2 月 24 日に開催された第 24 回ディスコース心理学研究部会で発表された。